

田中ORT(視能訓練士)のちょっといい話

見えるってどういうこと?～視覚のはたらき

第8回(全10回). 視野のはなし(2) 周囲から理解されにくい『視野の障害』

『視野』という言葉は、“物事を考えたり判断したりする範囲”という意味で日常的に使われています。視覚としての『視野』は、目を動かさずに見える範囲を言います。視野障害では、“広さ(面積)”の他、“どの部分がどれだけ見えにくいかが問題になります。

視野が狭い
なあ～

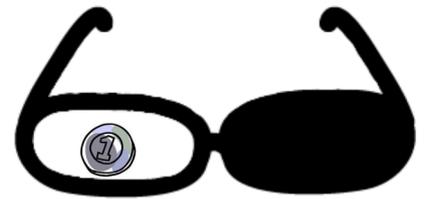
広い視野で
考えなさい



【中心視野】視野の中で、中心部分は周辺に比べて飛び抜けて感度が高く、私たちは無意識に目を動かして見たいものに視野の中心を合わせています。

体験1. 視野の中心部分が見えにくい

メガネの片方のレンズの中心にテープ等で1円玉を貼り付け、もう片方は見えないように覆います。そのメガネをかけて、目の前の1円玉越しに前を見てください。



ゆっくり頭を動かせば周辺の状況は何となくわかりますが、1円玉が邪魔をして、見たいところが見えません。つまり、障害物を避けて歩くことはできても、文字が読めないのです。

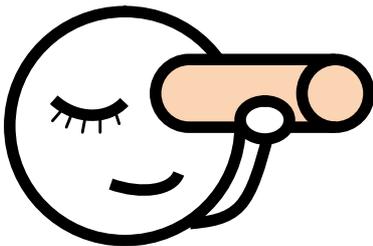
一人でスタスタ歩いてたから、本当は見えてるんじゃない?

こんな誤解!



【周辺視野】周辺視野の感度は低く、ぼんやりとしか見えません。では、感度の高い中心視野があればそれでいいのでしょうか?

体験2. 視野の周辺部が見えにくい(視野が狭い)



紙を丸めて筒状にして、片目に当ててください。メガネは外してください。もう片方の目は隠します。

筒をのぞくと、見たいところは見えますが、周囲の状況がわかりません。視野が狭い方は、視力も悪い場合もありますが、

視力が良ければ細かい文字でも読むことができます。つまり、文庫本を読むことはできても、初めての場所は歩けないのです。

あんな小さい字が読めるんだから、本当は見えてるんじゃない?

こんな誤解!



視野の障害は、周囲からは理解されにくいものです。黄斑変性、網膜色素変性、緑内障などで見えにくい方は、自らの見え方を理解して、人に伝える努力も必要ですね。

次回は、眼球運動のお話をします。

点字ディスプレイ

パソコンの画面に表示された文字情報を視覚障害者が指で読むことを目的として開発されたのが点字ディスプレイです。

ピンを物理的に持ち上げて点字を表すため、「ピンディスプレイ」とも呼ばれます。

